

総合特別区域の進捗に係る評価
〔農林水産業分野〕

令和元年度

競争力と持続力を持つ交流6次化モデルの構築特区

〔指定：平成24年7月、認定：平成30年3月〕

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(3.8+3.8)/2=3.8$

3.8

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	耕作放棄地面積	87%	4
2	農業従事者	99%	4
4	農業所得	83%	4
5	市人口社会増減数	441%	5
6	観光入込客数	98%	4
7	地域資源を活用する民間企業の参入数	50%	2

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 4 + 3 \times 0 + 2 \times 1 + 1 \times 0) / 6 = 3.8$

3.8

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一貫しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.8

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(2+3.8)/3=2.9$

2.9

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

-

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.8

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.0

・完熟農園跡地への集客施設誘致について、企業公募の検討段階であり、地域資源を活用した六次産業・農業所得・農業従事者を拡大していく上で、核となる事業が未だ見えていない印象がある。むしろひとつひとつの地道な取り組みで、就農者・移住者を確保していく他はないのではないかと。

・気象条件の影響を受けやすく、季節変動の大きい果樹に関しては、加工・商品開発による通年の生産を工夫していく必要がある。

・耕作放棄地、農業従事者数、農業所得についてもなかなか目標の達成が困難な状況にあることがうかがえる。市全体としては活況を示しているといえるだろうが、市の生産活動の基盤となる農業についても、堅実に取り組むことで、相乗効果が発生することに期待。

・数値目標(5)「市人口社会増減人数」については、社会減を徐々に減らす目標を立てているのに対し、既に社会増を実現し、しかも年々増加傾向にあり画期的である。

・首都圏に近いという地の利を活かした移住者の呼び込みを進めてはどうか。コロナ禍の下で都市を脱出したい人々のニーズに応えることができるのではないかと。南アルプス市らしいライフスタイルを考える必要がある。

・毎年変動する評価指標(2)「農業従事者」と評価指標(4)「農業所得」については、中長期の傾向把握や対策が必要。

・「(7)地域資源を活用する民間企業の誘致数」は、連続して実績がゼロであったので、1件とはいえ、令和元年度に実績があったのも画期的だったと評価できる。規制の特例措置等を活用した事業や、国の支援措置に係る財政・税制・金融支援は活用実績がないが、地域独自の取組は相当程度、活発であると評価。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.0

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(3.8+2.9+3 \times 2) \div 4=3.2$

3.2

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。